

3つのコンセプトを実現するデータ連携基盤

データ利活用の促進のため、データ提供者とデータ利用者との間で柔軟かつ効率的なデータ連携を実現するための基盤要件を定義

データ利用者

防災

まちづくり

モビリティ

エネルギー

自然

ウェルネス

教育

働き方

産業

Service

東京データプラットフォーム データ連携基盤

①大きなデータベースは作らない

②トラストの確保

③リーンスタートと拡張性

データを流通させる連携基盤
国や関連団体、他PFとの相互運用性の確保

連携基盤が果たすべき役割の見極め

必要な機能からスタート
マイクロサービスアーキテクチャ※で構成

データ提供者

※システムを小さな部品の集まりで構成し変化や拡張に柔軟に対応

目次

目次		概要
1	概要	背景・目的、データ連携基盤の位置づけ及び概略 - なぜ東京都がデータ連携基盤に取り組むのか
2	業務要件	利用者のトラスト、データのトラストを意識した業務の一覧 - 想定するデータ連携基盤の利用者、必要となる業務はどのようなものがあるか
3	システム概要	拡張性を求めたマイクロサービスアーキテクチャによる機能構成 - データ連携基盤のシステム構成と接続ポリシーはどう考えているか
4	システム要件	データを流通させるデータ連携基盤を構成する機能、画面、データの一覧 - 要件の背景とともに、ポリシー策定事業の成果を考慮したシステム要件を整理
5	非機能要件	セキュアかつ安定稼働を実現する非機能要件の一覧 - 「可用性」、「性能・拡張性」、「運用・保守性」、「セキュリティ」について
6	サービス運用	TDPF運営組織としてのサービス運用、システム運用、環境の一覧 - データ利活用活性化のための取り組み内容、運用する環境の一覧
7	ロードマップ	機能ごとの対応時期 - リーンスタートとして初期必要となる機能と、拡張のステップ